

## 藤樹學（会津心学）関係資料

### 願成寺三門

「わが国陽明学の始祖と言われる中江藤樹の学問が、その高弟渕岡山によつて会津にもたされ、一時禁止されたことがあつたが、その内容が人として一日もゆるがせにできない学問であるとして許されとくに喜多方地方で藤樹學として盛行した。

「知りて行わなければ、本当に知つたことにならない」「慢心を斥け謙虚な心をもつて物に接する」という藤樹の学問が、延宝期（一六七三）から幕末にかけての二百年間近く、盛衰はあつたが多くの信奉者によつて継承され、当地方の風教の中核として大きな影響を与えた。

所在地 岩月町 二浦明氏所蔵



所在地 上三宮町上三宮字籬山 願成寺

三門は、元禄元年（一六九七）に竣工したものといわれ三間一戸の楼門造りで、主柱（径三〇センチ）四本、控柱（径二五センチ）八本の円柱からなり、柱は基礎の野面石に直接乗せ、大貫（ぬき）と地覆（じふく）で振り止めされている。組み物は、出組の結組、腰組は二手先の結組で二層回廊の縁（えん）葛（かづら）に大床板を張り渡して縁回りとし、四隅に擬宝珠（ほし）の立つ高欄が取りつけてある。

屋根は、二軒繁垂木（あたのきしがたるき）の入り母屋造り、現在は銅板葺（きとなつ）ている。丸柱に粽（ちまき）、台輪など禅宗様と、正面柱間の虹梁（こうりょう）や上層正面の格子戸、その両脇の連子窓などは中世に発達した新和様をまじいた建築である。